

日 時:令和7年3月28日(金)午後2時~3時30分

場 所:上下水道部中会議室

出席委員:5名(望月委員、網委員、村田委員、佐古委員、大野委員)

事務局:3名(生涯学習課)

案件1 令和6年度 文化財啓発事業等に関する報告(事務局説明)

1. 埋蔵文化財立会関係

市内での開発行為に先立ち、9件の立会調査を実施しました

2. 普及啓発活動

ふるさと摂津講座

ふるさと摂津講座を5回開催しました。講師は自主学習グループのふるさと摂津案内人の会の方々です。4月15日に歴史散策「大正川の歴史と自然」、6月12日に「須佐之男命神社」「味舌むしろについて」、8月7日に「淀川の摂津甚句」「島下郡の式内社を訪ねて」、11月20日に「鳥飼と陰陽師」「狛犬」、12月11日に歴史散策「一津屋地区の歴史散策~旧一津屋公会堂の保存と活用を考える」を開催しました。

味舌むしろに関する研究をまとめたパワーポイントを投影した。

3. 味舌天満宮本殿屋根改修工事

大阪府指定有形文化財 味舌天満宮本殿の屋根の檜皮葺替工事が実施されるため、令和6年度大阪府・摂津市文化財保存等事業補助金(1,455,000 円)を交付しました。味舌天満宮本殿は寛永12年(1635)建築された一間社流造、正面千鳥破風、軒唐破風付、檜皮葺の建物です。

[質疑応答や各委員の意見等]

(委員)味舌むしろの取組はいいことだと思う。子どもを集めて体験学習ができればいい。予算の都合が大きいが織機のレプリカができればいいのでは。

(委員)地元の地域活動としていい取り組みになる。河内木綿も人気がある。

(委員)織機は掛川製との事ですが地元で製作することはなかったのか。

(事務局)今の自動車のように生産拠点で製作していたようです。

(事務局)現状の状態では復元は難しい状態です。4台あるので各パーツをくっつけるような発想は可能でしょうか。

(委員)郷土資料館等ができれば展示する可能性が高いので現状保存が望ましいと考える。複製をつくる事が望ましい。

案件2 市指定有形文化財旧一津屋公会堂について(事務局説明)

1. 旧一津屋公会堂の概要

大阪府摂津市一津屋2丁目18番13号に所在する旧一津屋公会堂は、大正2年(1913年)

に宮ノ下の渡しの船着き場のたもとに芝居小屋として建築されました。建物の希少価値から平成23年6月15日に摂津市指定有形文化財に指定されています。

旧一津屋公会堂の最大の特徴は芝居小屋の機能を備えている点にあります。舞台を有していること、楽屋として利用できる地下室があること、2階観覧席である栈敷席(さじきせき)があること、舞台音響施設である黒御簾(くろみす)があることです。旧一津屋公会堂は、大正時代の芝居小屋のたたずまいを現在に残している貴重な建物です。

木造2階建 1階222.95㎡・2階73.1㎡

2. 大正時代の芝居小屋に関するアンケート調査

施設整備を進めていく中で、芝居小屋を活用した練習、公演・発表会場についてニーズを把握する事を目的にアンケート調査を実施しました。アンケートは、令和7年2月17日～3月7日の期間にロゴフォーム(QRコードによるインターネットでの調査)を活用し実施しました。

対象は、演劇部のある高等学校23団体、演劇部・サークルのある大学17団体、伝統芸能部のある高校8団体、摂津市文化連盟発表の部35団体の合計83団体です。そのうち回答があったのは、11団体でした。

3. 令和6年度 旧一津屋公会堂耐久性調査委託業務

文化財専門業者により、文化財建造物としての耐久性を正確に測るとともに、文化財的価値を損なわない補強方法について提案いただく耐久性調査を実施しました。委託業務期間は令和6年9月10日～令和7年3月31日で、受託者は、一級建築士事務所 木四郎建築設計室です。

業務内容は以下のとおりです。

耐震診断を行いました。診断方法は限界耐力計算とし、設計・施工において伝統構法を用いることを念頭に耐震性調査を行いました。

建物を詳細に調査し、歴史的変遷、傷んだ部材や構造上の問題点、改善すべき箇所を洗い出し、保存修理・活用改修実施設計を行うことのできる情報をまとめる建物詳細調査を行いました。

耐久性に影響を及ぼす構造部材及び仕上材について公益社団法人日本木材保存協会が認定する劣化診断士による木材の劣化診断を行い、対象建築物の木部の損傷程度及び交換部材の有無について劣化診断を行いました。

調査成果は、一級建築士事務所 木四郎建築設計室 奥田辰雄作成旧一津屋公会堂耐久性調査文化財保護審議会資料より抜粋します。

構造上の特徴としては、柱は外周及び内部について概ね通し柱を使用し、階数は2層であるが平屋のような軸組となっています。小屋組はトラスを使用することで約10m近いスパンを可能とし芝居小屋の空間を作り出しています。

梁などの横架材の樹種は概ねベイマツを使用し、トラスの下弦材や2階床梁及び1階床組の大引などに長尺のベイマツ材を使用しています。建築年が大正2年であることから輸入材が早くから利用されていることがわかります。

構造材は伝統的構法で組まれており、補助的に引きボルトなどの金物が使用されている。当時としては稀なベイマツ長尺材の使用、小屋組みとして洋小屋型式(トラス)採用、水平面の剛性確保に有効な火打ち梁の使用などの理由で築111年を経過しても比較的健全な状態の軸組を維持できていると考えられます。

限界耐力計算で求めた地震時の構造安全性は、けた行方向（奥行き）については設定したクライテリア以下の値であることからごく稀に起こる地震に対して耐震性が確保されています。張間方向（間口）は設定したクライテリア以上の層間変形となることから構造補強を施し設定したクライテリア 1/15rad 以下になることが必要です。

建物の地震時の振じれについては、構造要素がバランスよく配置されており、今後の耐震補強後においても現状でのバランスの良い構造要素の配置を維持することが重要です。

耐震補強工事を行うときにこのような損傷部材については部材の交換や柱脚部については根継ぎ等の方法で修繕を行い健全な状態にすることが必要です。

[質疑応答や各委員の意見等]

（委員）回答率が低い。アンケートの充実を図る必要がある。今回のアンケートの時期は受験シーズンで学生がいらない時期なので、実施時期を検討する必要がある。外部からの声が大事。最終的には補助金をとる事が必要になるだろうから外部への売り込みが大事だと考える。

（委員）演劇場として活用するのがいい。こけら落としは落語が会場の規模から見てもちょうどいいのでは。

（事務局）参考にいたします。

（委員）旧一津屋公会堂は摂津市の文化財としての価値は高い。文化財保存活用地域計画作成時にはストーリーをつくる事ができる。

（委員）摂津市で劇団をつくる拠点施設となりうる。味生神社の祭りと連携するのもいいかも知れない。

（事務局）貴重なご意見ありがとうございます。今後の旧一津屋公会堂の保存や活用の計画の参考としてまいります。

案件3 令和5年度千里丘西地区再開発に係る発掘調査報告書の刊行及び顕彰版の設置について
（事務局説明）

令和5年度に実施された千里丘西口の再開発に係る発掘調査について調査報告書を刊行しました。今後は遺跡の周知を図るため新しくできる駅西口のロータリー内に文化財顕彰板を設置する予定です。サイズは高さ 1m30cm、幅 90 cm、文字数 450 文字、写真1枚、地図1枚程度を予定しています。

[質疑応答や各委員の意見等]

（委員）元号が変われば分かりにくくなるので西暦標記をして欲しい。

案 件:その他 特になし

午後3時30分 審議会 終了